

第一回 犀竜民話と川会神社

雄大な有明山、連なるアルプス、緑豊かな田園... 遺暦を過ぎ、自分の育った故郷を見つめなおしてみよう。そんな思いから仁科宗一郎先生の「信濃池田町史話」、坂本博先生の「信濃安曇族の謎を追う」などの本を読んでみました。その中から始めて知った面白い話を著者のご了解を得て紹介します。



犀竜民話は江戸時代に松本藩で編集された信府統記旧俗伝(一七二四)で紹介されています。その概要は次のとおりです。景行天皇の二二年前、松本地方は大きな湖だった。ここに犀竜(諏訪大明神の化身)というものが住んでおり、た、東高梨の池には白竜王(日輪の精霊)がいた。両者の子を泉小太郎と言った。小太郎は犀竜の背に乗り、山清路の巨岩を突き破り千曲川から越後の海まで乗り込み、湖の水が引き、陸となり、松本平ができた。小太郎は有明の里、今の池田町十日市場の川会という所に館を建てて住み、子孫は大いに繁昌した。歳月が流れ小太郎は「私は鉢伏権現の生まれ変わりであり、この里を守護する」と言つて犀竜、白竜王と同様、仏崎(大町市常盤)の岩穴に隠れた。人々は彼所に川会大明神の社を建て、小太郎の霊神を祀った。

民話のはなしとはいえず、小太郎が池田町に住んで、小太郎を祀った神社が川会神社であることを仁科・坂本の両先生とも、上記の本の中で述べています。特に、坂本先生は「犀竜民話は元来川会神社に代々語り継がれてきた伝承なのに、他所の話のように語られていて大変残念に思う。何時の日か、犀竜と小太郎の母子が本家の川会神社に帰ることを心から願っている」と述べています。(「信濃安曇族の残骸を復元する」一八二頁) 昨年、犀竜民話と川会神社の関係を記載した標柱が設置され、神社の鳥居も改築されたことは喜ばしいことであり、関係した皆様のご尽力に敬意を表するものです。私も含め、川会神社と犀竜民話との関係を知らない町民も多いと思います。このことをホームページなどで全国に発信し、「泉小太郎のふるさと池田・十日市・川会神社」を地域興しに役立てたらよいと思います。皆さんはどう思われますか。(洪田見 太田 勉)

《新連載》

長野南牧村で三人目の共産党員村長誕生!

いよいよ光る日本共産党の真価

密室での小沢・福田会談の中身が自民・民主の大連立構想であったことを発端とする、小沢代表の辞任表明と直後の撤回劇。何ともおそまつな顛末に国民は啞然とさせられました。民主党執行部が大連立を認めなかったその背景には、参議院選挙で示された国民の力がありません。しかし同時に、執行部が小沢代表に留任を求めた背景にはアメリカと財界の強い圧力があることも見ておかなければなりません。

衆議院解散で民意を問え! 十一月十三日には新テロ特措法が野党の反対を押し切つて衆議院で可決されました。アメリカの意図に何かなんでも答えようとする自公政権のねらいを許してはなりません。

十一月には、長野南牧村で共産党員村長が誕生しました。国民が政治を動かす時代が始まっていることを実感させる快挙です。

衆議院をすみやかに解散し、民意を問うべきだという世論を一刻も早く大きくしていきたい。 十月十四日に「日本の青空」という映画を観て、忘れかけている平和願望への願いを改めて感じ、現在の社会のありようを暮らしの中で考えるきっかけとなりました。 日本国憲法が、アメリカによる押しつけではなく、憲法学者鈴木安蔵を中心とする憲法研究会によつて日本国民の思いに添った草案が作成され、それをGHQが手本として採用して制定されたことを、この映画から理解することができました。そして、歴史の真相に深く目を向けることがなかった自分には、日本の憲法誕生の歴史を改めて勉強する機会となりました。

映画「日本の青空」を観て 滝の台 M・S (現在の私の親の姉兄達)を抱いている終戦直後の写真を見ると、当時の日本が生々しく感じられる風景の中に、人々が永遠の平和を願い、これからの幸せと希望に満ちあふれた活き活きとした喜びの笑顔を感じ取ることが出来ます。 戦争の生々しい体験話を語る方々が次第に減少していきまます。だからこそ、これからの若い世代の人々にも、日本の平和憲法の大切さを積極的に考えてもらいたい、そして一人でも多くの方々に日本国憲法誕生の真相を知ってもらいたいと感じました。 そして、戦後六十年以上もの間、かろうじて戦争することなく人々が安全な暮らしをしてこられたのも、この平和を謳った日本国憲法第九条があったからだと心底から感じました。

コラム有明 鳩山邦夫法相は「GHQの親切で厳しい指導と押しつけて日本国憲法ができた。日本人自身の手で憲法を書き直す大仕事を」と発言。「改正」の時期は三十年以内との考えを示した。安倍の「五年以内」が押し戻されたと告白した格好だが、現憲法の「天皇、国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は憲法を尊重し擁護する義務を負う」に反する、率先して法を守るべき法の国会請願署名で国民多数の意思を示し、将来ともに九条改憲発議できぬようにしよう守屋の口から久間・額賀の名が出た。規律が厳しいはずの防衛省の最高幹部自らが腐敗していた。膨大な五兆円の軍事費を持つ官庁と業者の癒着。何が国を守るだ! 山田洋行との関係は氷山の一角。インド洋沖での給油ごまかしなども含め徹底追及を。イラクには米軍のほか、米政府と契約した民間軍事会社員二万人が送り込まれている。九月、この社員にイラクの子どもを含む十七人が射殺された。こつとした職業的「殺し屋」を雇うアメリカの戦争に加担する日本政府。戦争はわれわれの税金を湯水のように使うのだ。絶対許すべきではない。声を挙げよう。衆院選は近い。

部内資料

発行責任者 村端 浩 (62-8440) 議員連絡先 山本久子 (61-1066) 服部久子 (62-4357)

呆れた大連立構想と民主党のドタバタ劇 国民が政治を動かす時代ですよ、小沢さん!